

# 6 下水道・河川

～公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち

## <基本計画の目標>

公共下水道（雨水）、河川並びに雨水貯留施設整備をさらに推進し、浸水被害の解消をめざします。  
 下水道の普及をさらに促進させるとともに、市街化調整区域内の生活排水処理をすることにより、生活環境の向上を図ります。  
 施設の改築・更新等を推進し、鎌倉処理区の再構築をめざします。  
 水環境の向上に努め、親水性を高めます。  
 下水道資源(水・熱・汚泥等)の有効利用を図ります。

## <目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
公共下水道の普及率(+)	総人口に占める公共下水道の供用開始区域内人口の割合	95 %	95.9 %	96.3 %	96.4 %	<b>96.5</b> %	98 %	100 %
水辺環境の改善率(+)	川の水がきれいになったと感じる市民の割合	57.6 %	56.4 %	60.5 %	64.3 %	<b>63.9</b> %	65 %	69 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	63.3 %	65.4 %	65.7 %	68.8 %	<b>68.2</b> %	66 %	68 %

# <これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価: ◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

## ・都市整備部

### <昨年度からの課題>

- ・公共下水道（雨水）及び河川の整備を推進します。
- ・雨水排水施設の整備や準用河川等の整備・修繕と併せて、雨水貯留施設等の整備を含めた総合的な浸水対策計画に基づいた浸水の解消に向け取り組みます。
- ・河川等の親水環境を整備し、潤いと安らぎのある水辺空間の創出、生活環境の向上を目指します。
- ・雨水管渠、調整池等の雨水排水施設の耐震補強の必要性、優先度の評価を行なった上で耐震化を進めます。
- ・下水道法の事業認可を取得した市街化調整区域の整備については、平成21年度から工法の検討や各家庭の汚水ますの位置を調査する実施設計を行うとともに、分担金条例の制定を準備するなど、平成22年度からの工事着手に向けて取り組んでいきます。
- ・既設汚水管路施設の修繕計画に従い、平成25年度まで順次修繕を行います。
- ・地震時における下水道が有すべき機能の必要性や緊急性から、施設の耐震化を図り、基本的な機能を確保する必要があります。
- ・鎌倉処理区における七里ガ浜浄化センター及び汚水中継ポンプ場の改築更新については、環境に配慮した省エネで効率的な施設計画を進めます。
- ・汚泥・焼却灰の有効利用を推進します。
- ・山崎浄化センター西側上部利用について、スポーツ広場として利用するため、引き続き協議・検討を行います。

### <進捗>

- ・公共下水道（雨水）及び河川の整備については、実施可能なものから順次施工しました。
- ・大規模な雨水貯留施設の設置や既存排水施設の改良等の計画を盛り込んだ具体的な対策について検討を行い、関係機関と協議・調整を進めました。
- ・河川等の親水環境の整備については、潤いと安らぎのある水辺空間の創出、生活環境の向上を目指した親水護岸の整備を進めるため、対象水路の調査・検討を行いました。
- ・雨水排水施設の耐震化について、国庫補助事業である「下水道総合地震対策事業」の採択に向けた準備として、耐震化事業計画を作成しました。
- ・市街化調整区域において、平成21年度に管渠実施設計及び地下埋設物調査を実施しました。
- ・既設汚水管路施設の修繕計画延長の56%（鎌倉処理区）、61%（大船処理区）を実施しました。
- ・鎌倉市下水道地震対策緊急整備計画に基づき耐震化工事に着手しました。
- ・七里ガ浜浄化センター及び七里ガ浜ポンプ場の改築工事を計画的に実施しました。
- ・汚泥・焼却灰については、100%有効利用を行いました。

### <課題>

- ・公共下水道（雨水）の整備は順次行なっていますが、整備延長が膨大なため年間整備率は微増となっています。
- ・平成20年度に策定した「鎌倉市下水道総合浸水対策基本計画」に基づく取り組みが必要ですが、事業実施には膨大な費用が掛かります。
- ・河川等の親水環境の整備については、今後、地元住民や環境団体等と十分に調整を図る必要があります。
- ・今後は、耐震化事業計画を基に、国庫補助事業の採択に向けて、国・県との協議調整等の具体的な対応が必要となります。
- ・市街化調整区域の整備に向け、引き続き実施設計等を行うとともに、分担金条例の制定準備を行い、下水道管渠の整備工事を進めます。
- ・今後も経年劣化による老朽化が進行することから、現計画以外の管渠等の修繕も必要となります。
- ・大地震等に備えて、早期に下水道施設の耐震化を図る必要があります。
- ・七里ガ浜浄化センター及び汚水中継ポンプ場の改築更新を計画的に進めます。
- ・汚泥・焼却灰については、引き続き有効利用を行うとともに、今後も安定した有効利用先の確保のため調査検討を進めます。
- ・山崎浄化センター西側上部利用について、スポーツ広場等として利用するため、地元住民等と引き続き協議・検討を行います。

担当部の評価



# <今後の展開(取組方針)>

## ・都市整備部

- ・公共下水道（雨水）や河川の整備について、国庫補助の活用により事業費の確保を図ります。
- ・平成22年度に市街化調整区域の分担金条例を制定し、下水道管渠の整備工事に着手します。
- ・引き続き既設下水道管渠施設の修繕を計画的に実施します。
- ・鎌倉市下水道地震対策緊急整備計画に基づき耐震化工事を進めます。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



### 評価できるところ

- ・水辺環境の改善率、市民満足度とも良好な数値であるが、これは水質調査結果からも実証されている。これは、公共下水道の整備（公共下水道の普及率96.5%）が大きく貢献している。
- ・公共下水道については普及率がほぼ100%に近づき、この点では評価できる。また、水辺環境の整備により、昨年以上に川に魚が戻り、観光都市鎌倉としても、市民の美しい住環境としても不可欠なので今後も、整備、維持が必要であろう。
- ・市民満足度も2年連続で68%以上であり十分評価できよう。
- ・市内で蜚が見られ、水場環境が良好に保たれている。



### 課題・提言

- ・ホテルの棲息がみられる事例など具体的な水質改善事例をあげるとさらに分かりやすい。さらに潤いと安らぎのある水辺空間の創出に向けて住民との協働によって進めていくことが求められる。
- ・山崎浄化センターの上部利用ではスポーツ広場といった利用だけではなく、市民に有効に活用できるアイデアが必要だろう。市民から利用法に関するコンペでも実施したらどうだろうか。
- ・ゲリラ豪雨が多発しているため、突発的な水害の予防、発生時の対応の仕組みを検討したい。